



みはま 議会だより

9月議会
第3回定例会
第125号

CONTENTS【目次】

一般質問 7議員 3

こんな質問がありました 9

平成28年(2016年)10月25日

町の総決算額

71億5千8百万円

9月定例会は、9月13日から21日まで、9日間の会期で開き、報告1件、工事請負契約の変更、一般会計補正予算など議案8件、平成27年度一般会計・特別会計・水道事業会計の決算など認定7件について審議を行いました。

なお、一般質問は7議員が行いました。(高野議員は本人の希望により掲載していません。)

わが町の決算

平成27年度

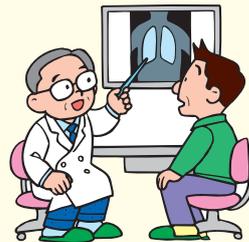
一般会計



42億5,500万円

特別会計

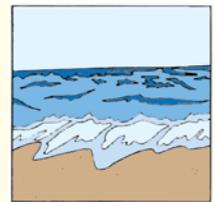
国民健康保険のお金



12億6,500万円

特別会計

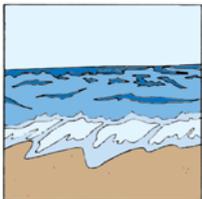
和田、入山・上田井の下水道のお金



1億8,600万円

特別会計

浜ノ瀬、新浜、吉原、田井畑、本ノ脇の下水道のお金



2億6,100万円

特別会計

介護保険のお金



8億1,200万円

特別会計

後期高齢者医療費のお金



1億9,900万円

水道事業会計

上水道のお金



1億8,000万円

一般質問

質問

安心・安全のまちづくりを基本に道路建設を

答弁 安全で快適な道路網の整備促進に努める



繁田 拓治 議員

地方創生について思う

質問 日本の人口が7年連続で減り続けている。わが町もしかりだが、隣町では増えている。

住民の関心は地震より津波被害を心配している。安心・安全に宅地化できる道路網の整備が必要では。

町長 幹線道路網の計画的な建設は、町が発展するうえで重要な要素である。

快適な暮らしが担保されると同時に、災害に対する強靱化も図られ、安心で安全な暮らしに資するものである。



▲大雨による土砂崩れ (9/20)

質問 まず、三尾から本ノ脇(御坊由良線)について進め、日高町と協力し合い、観光バスが西山一周できるようにしては。産湯海水浴場まで観光バスが来てUターンして帰っている。

三尾から煙樹海岸を通り帰っていただと、また色々な展開が見えてくる。

町長 町単独では無理なので、県・国にお願いしようでは・・・。

安全で快適な道路

網整備促進に努め、県・国に働きかけていき、人口減少の歯止めをかけていきたい。

副町長 皆さんの声を束ねていくことが実現につながる。

地方創生統括官 非常にポテンシャル(可能性)のある町なので、アイデアの余地部分がたくさんある。

地方創生に頑張る。

質問 町づくりは人づくりからと考えますが。

教育長 教育大綱に「ふるさとを知り、ふるさとを愛する心の育成を目指して」という言葉を掲げ取り組んでいる。

ふるさと納税

質問 楽天のインターネットを活用して内容の充実を図ることであるが。

町長 楽天への申し込みは既に完了、返礼品が決まればホームページに公開予定。

質問 寄付金の利益と使途、損出分は。

町長 平成25～27年は利益が出ており損出はない。
質問 損出が出れば国からの補填(ほてん)はあるのか。

町長 損出分の75%は普通交付税で補填される。

質問 寄付金の使途をもう少し明確に。

総務政策課長 煙樹ヶ浜・松林の保全、防災、教育・文化、健康・福祉、スポーツ振興等を登録しているが、美浜町に縁がない方が増えてくると思われるので、あまり限定しない方がいいのでは。



▲返礼品なにがいいかな？

一般質問

質問

子どもの居場所づくり推進事業の今後は

答弁 前向きに検討できれば



龍神 初美 議員

質問

子どもの居場所づくり推進事業として、小学4年生から6年生の児童を対象に、本年度初めて、夏休み自習教室に取組まれたが、この事業に対する町の考えは。

町長

地域の子どもの健全育成を図るという観点から、今回の夏休み自習教室のような事業も有効な取り組みの一つであると認識している。

質問

夏休み自習教室の取り組みの成果をどう捉えているか。

町長

子どもの自主的な学習を促すという観点、



地域の方々と子どもとの触れ合いの機会を設けるという観点から、一定の成果を上げたのではないかと認識している。

質問

今後、高学年児童の居場所づくりとして、様々な条件で検討できる価値ある事業だと思いが、現時点でどのような課題があると考えるか。

教育長

反省会の結果、勉強ばかりではなく、頭の体操ゲームを取り入れたところ、食いつきすぎで離れなくなった。



▲自習教室 (松原)

2時間勉強ばかりすると思つて、保護者も子どもたちも足踏みをしたなど、募集時に内容を知らせておくのも大切だった。定員30名のところ22名の参加だったが、20名ぐらゐが適切という指導者の意見があった。

町長にお願いをし、来年度も続けていきたいという希望を持っている。

質問

居場所づくりに向けて、より具体的な委員会などを作って、検討していく考えは。



▲自習教室 (和田)

教育長 今のところ委員会をもって、という形は考えていない。

質問 子どもを取り巻く事業には、今後も新規の事業がたくさんできるだろう。

例えば、子育て事業推進委員会などを作って、近年の現状に即座に対応できる体制づくりをしっかりとつこうか。

町長 教育委員会とも協議の中で考えていきたい。

一般質問

質問

三尾地区に福祉避難所がないのは問題

答弁 当面、旧三尾小で代用



中西 満寿美 議員

質問 8月10日締結された「災害時における相互

応援に関する協定書」の中で、「罹災者を収容するための施設の提供」の具体的中身は。

町長 有事の際、日高郡町村会長が総合調整にあたる。

質問 前もってもつと中身をつめておかねば災害時の混乱の中で実効性がないのでは。

町長 改めて事務担当者と協議したい。

質問 助かった命が避難所の劣悪な状態の中で失われる事例が多い。中でも障がい者、高齢

災害時における応急対策活動の相互応援に関する協定書締結式



▲協定書締結

者など災害弱者に集中している。

福祉避難所の確保・整備が災害犠牲者ゼロのため重要。

町内に対象者は何人いるか。

町長 371名で、うち三尾地区91名。

質問 三尾地区に福祉避難所がないのは問題だ。

防災企画課長 当面、旧三尾小で代用したい。

質問 福祉避難所として指定している小中学校に設備・器材・人材等を整

備していく必要があるのではないか。

町長 障がい者用トイレや必要物資及び器材等について教委と相談し対応していく。

質問 福祉避難所の場所・特性をどう周知するか。

町長 自主防災連絡委員会を通じ周知していく。

ごみの減量

質問 広報・啓発にどう取り組んでいるか。

町長 「燃えるちゃん」と「燃えないくん」のキャラクターを作っており、こども園・学校・みはま学園で分かりやすく「分別」や「3R」の大事さをアピールしている。

今後、食品ロスも取り上げたい。

質問 生ごみ処理機の実績が27年度2基とはあまりにも少ないのでは。

町長 ある程度普及した結果ではないか。

質問 美化推進委員会の活性化をどう図っていくか。

町長 広報みはまで会員の募集をしている。会長と相談しながら進めていく。

質問 福岡県の大木町のようにごみを資源とらえ町づくりに活かしていく考えはないか。

副町長 廃棄物対策課長の経験もある。提言としていえる。



▲燃えるちゃん・燃えないくん



質問 西川護岸の整備はいつ頃になるのか

答弁 早ければ、来年度から河道掘削 工事が出来るのでは



碓井 啓介 議員

質問 大川橋上流右岸沿いの西川護岸は、現在草木が生い茂り、中には直径20cm位ありそうな木もある。

川が増水したりすれば、風や水に木が揺すられ護岸が弱くなるばかりでなく、河川の流下能力の減少にもつながり、増水を助長させる。

町長 西川の整備事業はいつ頃になるのか。
西川の河道掘削に係る測量調査は始まっている。

詳細設計業務も発注している。「早ければ、来年度から河道掘削工事が

できるのでは」と、日高振興局建設部から聞いている。

質問 当地の護岸整備はいつ頃になるか。

町長 以前より地区の皆様から聞いているが、予算や危険性、緊急性を考慮して、振興局建設部との協議の結果、本年度は和田川と東裏川の護岸改修が予定されている。

当該箇所の雑草木問題及び、西川の維持管理は県の対処するところなので、引き続き要望していく。



▲こういう大きな木も・・・

質問 河川は県の管理と言いますが、被害をうけるのは町民。

とりあえずは護岸整備というくりでなく、木の伐採というかたちでいいと思うが。

近年は異常気象と言われる事象が多発し、もはや何時、何処で、何が起ころうとも想定外とは言えないのではないかと思うが、そんな中において、行政の判断、決断が非常に重要であるという覚悟はあるか。

町長 想定外は今では死語に等しい。

覚悟はと言ったことだが、私は美浜町の首長、その方向でやっているし、これからもやって行く。

質問 町長の言葉を聴いて、当町では想定外という言葉は無くなったものと認識する。

また、天災が明日起こるかもわからないという覚悟もあるか。



▲大川橋上流護岸

町長 今まで想像もつかない事象が多発しているのが実情だが、そう言った事もふまえながら、今後その方向で取り組んで行く。

一般質問

質問

矛盾、下水道料金の統一時期

答弁 私が昨年9月議会で答弁した通り30年度



田淵 勝平 議員

質問

平成27年9月議会の最終日に「町長は以前の議会で『下水道料金の統一を平成30年に行う』とのことだが、突然にできるものではない。前準備が必要ではないか」という質問をした。

その質問に対し課長の方から「公共下水の工事が27年、28年にかけて終わる。その後、判断していく」との答弁だった。

その後、町長に「もう一度確かめるが30年度、町長のこの任期が終わる



▲入山上田井処理場

までに料金の統一は完成するのですね」と念を押した。

その質問に対して町長の方からは「その方向で今後とも取り組んで参りたい」との答弁だった。

ところが、本年の3月議会に同じ質問をすると、上下水道課長から「31年度に統一化ということを考えている」とのこと、これは一体どういうことか。

町長 確かに、担当課長の答弁と時期にずれがあったが、私が昨年9月議会で答弁した通り、料

金の統一化を平成30年度に目指すことに変わりない。

すでに担当課に対し、統一時期を平成30年度として早急に取りかかるよう指示をした。

質問 ならば、以前から質問しているように、どのような経過で統一するのか、予定、流れを示して欲しい。

町長 現在、農業集落排水事業の和田処理場の改築工事が完了し、最終段階の機能調整工事を実施している。

次に、公共下水道事業は本ノ脇工区の管渠築造工事を実施している。



▲和田処理場



▲松原浄化センター

これらの工事は、今年度をもって完了する。

公共下水道事業の松原浄化センターは、2期工事の実施有無の決定を残すものの、大規模な工事等については完了する。

平成29年度から本格的に下水道料金の統一化に向け取り組んで参りたい。質問 非常に気苦労もされた上でのご答弁と信じ

る。30年度に統一というなら、本当に時間はない。ご苦労だと思うが、しっかり頑張ってください。期待しています。



質問

松ブランド・6次産業化への取り組みは

答弁 積極的な支援が必要



谷 重幸 議員

松ブランド化へ

質問 当町において、これまで、松ブランドの確立、6次産業化への取り組みを行ってきいていますが、現状をどのように捉えているのか。

地方創生加速化交付金を充当する根拠は。

町長 松葉堆肥を用いた未利用資源の活用、松林の保全にも役立っている。それを付加価値として、積極的に発信し、松ブランドの認知度を上げると共に、消費者の方が直接松ブランドとして手にとっていただけるよう積

極的な支援を展開する必要があるのではと感じている。その結果、市場からの評価を得ることができれば、美浜町の農業の発展に資することになるのではないかと考えている。



質問 この松ブランド化への取り組み、応援しない理由もないが、先程言われた付加価値のところ、その付加価値と売るということは必ずしも一致しないのではないか。

町長 消費者が手にとる段階では、松ブランドとして売られていない実情もある。その辺りの販売方法等、お客様に手にとっていたく所は、一考を要する部分ではないかと考えている。PRについては生産量

ないのではないか。PRという点でも決して足りないとは私自身感じないが、いかがか。

浜ノ瀬地先海岸問題、進捗は

質問 現場は全く進んでいない。なにをしているのか。

この問題の難しさは理解するが、逃げやごまかして進む話ではない。だから、なんの解決にも至らない今の現場が、十数年にもわたっている。先に忠告しておくが、

現在、基礎検討業務で出された対策工を絞り込む段階であると思うが頼りないものを出すならやめておくべきだ。

危機感をもってやっていただきたい。進みませんよ。逃げるな。ごまかすな。このことだけは注文つけておく。

こんな質問が ありました!!



修繕費・施設の更新費

Q 類似の町村にくらべて、修繕費、施設の更新が少ない。

A 経常収支比率が下がっても、するべき修繕や施設の更新をしなければ良いとはいえない。

Q 維持補修の中で、投資的経費に回せるものはなるべく回している。

A 公共施設等総合管理計画を策定しており、計画的に行なっている。

Q 全国的に、地方の公共施設の更新時期が迫っており、今後必ず維持補修費が増大していく。

A その上に、美浜町は津波対策に投資する必要がある。そこら辺を念頭に入れて運営するべき。

Q 施設の集約化をしていくことが必要だが、何もかも集約するのは難しい。

有害鳥獣対策

Q 有害鳥獣の被害が多い。西山の禁猟区を解除してはどうか。

A 西山は保護区域と区域外があるが、町が指定している害獣はどこでも捕獲することができる。

Q タヌキは少なくとも去年は二頭の捕獲。イノシシの被害が増えてきている。

A 銃器による捕獲は無理なのか。

Q 銃器による捕獲もできる。

A 猟期外でも銃器による捕獲はできるのか。

Q 町で許可を出している。

キャンプ場とアンテナショップ

Q 春季の利用可能期間を延ばす考えは。

A 28年度762人(三連休)、27年度は113

5人(五連休)であり、連休の長さには左右される。

Q 今後、アンテナショップを開店する予定なので、人数の改善に努力してほしい。

A 利用日数を増やしていく等、努力していきたい。

こども園における英語教育

Q 「美浜町の子どもは英語が話せる」町の特徴として、こども園における

る英語教育に取り組んでみてはどうか。

A 現在、ALT(外国語指導助手)と一緒に授業のような形で実施を始めた。

Q 今後、小中学校の英語教育と連携しながら、もっと強めていきたいと考える。

A 英語は、小さい頃から始めた方が良い。ALTをもう一人採用して、ALT中心に実施してはどうか。

Q それも一つの方法を検討してみる。



▲ALTによる「英語の日」(4歳児)

へリポート

Q ヘリポートは町長の2期目の公約にあったのか。

A 2期目の公約とさせてもっている。

Q 自ら凍結しておいて、予算総額が大幅にあがっている。もう一度提案した理由は。

A 熊本地震を見て、ヘリポートがベターでないかと考えている。

Q 旧三尾小は使わないのか。建設予定地は土砂災害警戒区域では。

A 旧三尾小グラウンドは駐車場。

予定地は幹線道路に近いため選定した。

砂防事業として、平成33、34年度に整備される計画があり、その後、土砂災害警戒区域から外れる。グラウンドは降りにくいのと、砂や埃がでてクレームがでた。

Q 有事の際にそんなことをいう人がいるのか。

A そついう声はない。なにも土砂災害警戒区域につくることはないのでは。

A 選定業務にて、適地の選定を行った結果である。

Q 土砂災害警戒時の避難所は風速狂であるが、そこからわざわざ危険な場所へ連れていくのか。

A その場合はヘリポートを使うのは難しい。

Q ヘリポートの安全が確保されてからでもいいのでは。

A まずは、地震津波対策ということでスタートする。

Q 砂防事業も遅いのではないか。東日本大震災のときから土砂災害警戒区域だったのでは。

A そつとわかっただけでも必要と判断した。

Q 順番が逆ではないか。そのとおりで。

Q 三尾の方にとつてヘリポートの整備だけでは今の状況とさほど変わらない。本当の意味でもつ

A と進めるべきだ。できることからやっ

国民健康保険

Q 決算額10億円台だった国保会計が、12億円台に増額したのはなぜか。

また、今後大幅に増額する可能性はあるのか。

A 平成27年度から保険財政共同安定化事業により、財政規模が膨らんでいるから。

平成30年度に都道府県単位化になるが、それまでに大きな改正がなければ、この位で推移すると思う。

人 事

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、新しい教育長は、町長が議会の同意を得て任命することになりました。

教育委員会教育長

美浜町大字吉原

三二三番地の一

古屋 修

教育委員会委員

美浜町大字三尾

三八二番地

岡本 和 能



あなたの意見をお待ちしております

議会に対するご意見、あるいは「議会だより」を読んだ感想など、何でも結構です。あなたの声を議会事務局までお寄せください。

《連絡先》

美浜町議会 議会事務局
TEL 23-5544 (FAX兼用)
mail gikai@town.wakayama-mihama.lg.jp
URL http://www.town.mihama.wakayama.jp/bunya/mihamachogikai/



議会中継についての お知らせ

本庁舎1階ロビーと中央公民館において、議会中継が視聴できます。ぜひ、ご覧ください。